

※一般質問の質問内容及び答弁内容は要約してあります。

公共施設の

老朽化対策は



問 公共施設で老朽化が進んでいる建物が見受けられる。

特に札内福祉センターは昭和49年4月に完成、札内支所として業務を開始し、多くの住民に利用、活用されてきた。

鉄筋コンクリート造り2階建て、1階は役場支所事務室、相談室や会議室、84畳からなる和室、2階には大集会室、図書室、2部屋の和室などもあり、当時、大集会室は結婚披露宴にも利用されていた。

時代とともにその利用状況も変わりながらも、多くの住民に愛用され現在に至っている。

建物完成から33年が過ぎ老朽化が目立つ。

2階大集会室は多くの人が利用するところであり、時代の要請に伴って障害者や高齢者のためにもエレベーターが必要になっていく。

また、札内中学校も開校から30年以上が過ぎて、すもりや雨漏りがおき、水周りやボイラーなども年月とともに老朽化が進んでいる。

今後、耐震工事も行われるとのことだが、教育現場の環境整備をどのように進めようと考えているのか、これらの二つの建物の耐用年数はどれくらいあるのか、また、新築、改築の計画はどのようになっているのか。

教育長

札内福祉センターは、札内地域のコミュニティ施設の中核として、年間3万人前後の利用があり、2階の大集会室は、たくさんの方が椅子席で集う場所として、老人クラブやしらかば大学など、高齢者の利用も多いが、階段の上り下りや物品の搬入・搬出など、2階にあることによる使いづらさがある。

平成13年度の改修で、未改修である2階部分の老朽化やバリアフリー対策など、課題があることは十分承知している。

利用実態に即した改善点について、構造的、技術的な検討を進めたい。

平成13年度の改修時、エレベーターの設置を検討した経緯がある。

当時は施設の構造上、エレベーターを設置することが不可能という判断をし見送ったが、現在の状況では、設置も可能と認識している。

東コミセンや百年記念ホールなど他のコミュニティ施設との機能分担や利用促進等を勘案し、2階部分の改修について検討を進めたい。

札内中学校は昭和50年に建築され、32年を経過し老朽化が進んでいる。

耐震強度の課題もあり、総合計画の3カ年実施計画にも大規模改修事業として位置づけ、北海道教育委員会と設計協議を重ね、早ければ平成20年度から耐震補強工事に取り掛かり、屋根

の葺き替えや給排水設備の更新なども実施したい。
札内福祉センター、札内中学校両施設は、構造上耐用年数は約60年であり、適

切な管理で、今後30年ほど利用が可能と考える。



札内福祉センター